Kolmogorov-Centsov の定理

@litharge3141

2020年6月22日

概要

このノートでは,確率過程の L^p ノルム評価からヘルダー連続性を導く Kolmogorov-Centsov の定理を 証明する.この定理はブラウン運動の構成や,確率微分方程式の解の評価など,種々の確率過程の連続性の 証明に広く用いられる.

1 定理の主張と証明

Theorem 1.1 (Kolmogorov-Centsov の定理). (Ω, \mathcal{F}, P) を確率空間とし、 $(B, \|\cdot\|)$ を Banach 空間とその ノルムの組とする. $X = (X_t)_{t \in [0,T]}$ を Ω から B への確率過程とする.

$$\exists C, p, q > 0, \quad \forall s, t \in [0, T], \quad E[\|X_t - X_s\|^p] \le C |t - s|^{1+q}$$

が成立すると仮定する.このとき,任意の 0 < r < q/p に対して,ある Ω から B への確率過程 $\tilde{X} = (\tilde{X}_t)_{t \in [0,T]}$ が存在して,次を満たす.

- 任意の $t \in [0,T]$ に対して $X_t = \tilde{X}_t$ がほとんどいたるところ成立する.
- ほとんどいたるところ正の値を取るある確率変数 $h \colon \Omega \to \mathbb{R}$ とある M > 0 が存在して

$$P\left(\omega \left| \sup_{\substack{0 < |t-s| < h(\omega) \\ s, t \in [0,T]}} \frac{\left\| \tilde{X}_t(\omega) - \tilde{X}_s(\omega) \right\|}{\left|t-s\right|^r} \le M \right) = 1$$

が成立する.

特に、X は r 次 $H\ddot{o}lder$ 連続な修正 \tilde{X} を持つ.

Proof.~0 < r < q/p が任意に与えられたとする。 $D_n \coloneqq \left\{ \frac{kT}{2^n} \mid k=0,1,\dots,2^n \right\}$ とし, $D \coloneqq \bigcup_{n=1}^\infty D_n$ とおく、 X_t は D 上一様連続な確率過程であることを示す。そのために,まず最初に

$$P\left(\omega \mid \exists n^*(\omega) \in \mathbb{N}, \, \forall n \ge n^*(\omega), \, \max_{1 \le k \le 2^n} \left\| X_{\frac{k}{2^n}}(\omega) - X_{\frac{k-1}{2^n}}(\omega) \right\| < 2^{-rn} \right) = 1 \tag{1}$$

を示す. そのためには,

$$A_n := \left\{ \omega \, \left| \, \max_{1 \le k \le 2^n} \left\| X_{\frac{k}{2^n}}(\omega) - X_{\frac{k-1}{2^n}}(\omega) \right\| < 2^{-rn} \right. \right\}$$

とおくと, $P(\liminf_{n\to\infty}A_n)=1$ を示せば十分.このことは $P(\limsup_{n\to\infty}A_n^c)=0$ と同値である.さらに、Borel-Canteli の補題から $\sum_{n=1}^\infty P(A_n^c)$ が収束することを証明すれば十分である.これを示す. $s,t\in[0,T]$

に対して,

$$P(\|X_t - X_s\| \ge \varepsilon) \le \frac{1}{\varepsilon^p} E[\|X_t - X_s\|^p]$$
 (∵ Chebyshev の不等式)
$$\le \frac{C|t - s|^{1+q}}{\varepsilon^p} \quad (∵ 仮定)$$

を得る. したがって $t = k/2^n$, $s = (k-1)/2^n$, $\varepsilon = 2^{-rn}$ とすると

$$P\left(\left\|X_{\frac{k}{2^n}} - X_{\frac{k-1}{2^n}}\right\| \ge 2^{-rn}\right) \le C2^{-n(1+q)}2^{rpn} = C2^{-n(1+q-pr)}$$

となる. したがって

$$\begin{split} P(A_n^c) &= P\left(\bigcup_{k=1}^{2^n} \left\| X_{\frac{k}{2^n}} - X_{\frac{k-1}{2^n}} \right\| \geq 2^{-rn} \right) \\ &\leq \sum_{k=1}^{2^n} P\left(\left\| X_{\frac{k}{2^n}} - X_{\frac{k-1}{2^n}} \right\| \geq 2^{-rn} \right) \\ &< C2^{-n(q-pr)} \end{split}$$

を得る. q-pr>0 だから, $\sum_{n=1}^{\infty}P(A_n^c)<\infty$ となる.したがって示された.次に,

$$P(\omega \mid \exists n^*(\omega) \in \mathbb{N}, \forall m > \forall n \ge n^*(\omega), \forall s, t \in D_m,$$

$$|s - t| < 2^{-n} \Rightarrow ||X_s(\omega) - X_t(\omega)|| < 2 \sum_{j=n+1}^m 2^{-rj}) = 1$$
(2)

を示す。(1) の中身の集合から ω をとる。ある $n^*(\omega)$ が存在して,任意の $n\geq n^*(\omega)$ に対して $\max_{1\leq k\leq 2^n}\left\|X_{\frac{k}{2^n}}(\omega)-X_{\frac{k-1}{2^n}}(\omega)\right\|<2^{-rn}$ が成立することに注意する。m についての帰納法で ω が (2) の中身の集合に含まれることを証明する。m=n+1 のとき。 $s,t\in D_m$ に対して $0\leq k_s,k_t\leq 2^{n+1}$ を用いて $s=k_s/2^{n+1}$ および $t=k_t/2^{n+1}$ とおける。 $|s-t|<2^{-n}$ ならば $|k_s-k_t|<2$ であることに注意する。 $\max_{1\leq k\leq 2^{n+1}}\left\|X_{\frac{k}{2^{n+1}}}(\omega)-X_{\frac{k-1}{2^{n+1}}}(\omega)\right\|<2^{-r(n+1)}$ が成り立つから,

$$||X_s(\omega) - X_t(\omega)|| = ||X_{k_s/2^{n+1}}(\omega) - X_{k_t/2^{n+1}}(\omega)||$$

$$< 2 \times 2^{-r(n+1)} \quad (\because |k_s - k_t| < 2)$$

となり、示された。m での成立を仮定して m+1 での成立を証明する。 $s,t\in D_{m+1}$ に対して、 $|s-t|<2^{-n}$ が満たされるとする。 $s',t'\in D_m$ で $|s-s'|\leq 2^{-(m+1)}$ および $|t-t'|\leq 2^{-(m+1)}$ かつ $s\leq s'\leq t'\leq t$ を満たすものが D_m の定め方から存在する。 $|s'-t'|\leq 2^{-n}$ が成立することに注意すると、

$$\begin{split} \|X_s(\omega) - X_t(\omega)\| &\leq \|X_s(\omega) - X_{s'}(\omega)\| + \|X_{s'}(\omega) - X_{t'}(\omega)\| + \|X_{t'}(\omega) - X_t(\omega)\| \\ &\leq 2^{-r(m+1)} + 2\sum_{j=n+1}^m 2^{-rj} + 2^{-r(m+1)} \quad (∵ 帰納法の仮定と (1)) \\ &= 2\sum_{j=n+1}^{m+1} 2^{-rj} \end{split}$$

となり,m+1 でも成立する.よって ω は (2) の中身に含まれ,(1) よりそのような ω 全体は測度 1 だから,(2) が示された.

2 応用例